

始めましょう 家庭で読書

いい本に出会うことは、
いい人に出会うことに
似ている。



子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造性を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものです

【子どもの読書活動の推進に関する法律の基本理念】

本を読む子を育てるためには、小さい頃から本に親しめる環境づくりが大切です。

家庭では、読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、図書館に出向いたりするなど、工夫して子どもが読書に親しむきっかけを作っていきましょう。

また、定期的に読書の時間を設けるなど、家族で読書の習慣付けを図ったり、読書を通じて感じたことや考えたことを話し合ったりするなど、子どもの読書への興味や関心を引き出すよう働きかけることが大切です。

始めましょう！ 家庭で読書！



家読（うちどく）のすすめ



「家読」とは、家庭において子どもを中心に家族で同じ本を読むことで、本を媒介として相互理解を深め、家族の絆が一層深まることを目指す活動です。

家族のぬくもりを感じながら優れた本に接し、一緒に共感し合うひときは、子どもの感性や心を豊かにする貴重な時間になります。

「家読」は、子どもにとってうれしい時間の一つです。家族のふれあいを通して読書のすばらしさを次の世代に伝えていく、そんな「家読」を、始めてみませんか。

小学校低学年くらいまでは・・・

子どもたちに読書の楽しさを伝えるには、「読み聞かせ」がよいとされています。絵本や物語はもちろん、昔話、なぞなぞ、ことばあそびの本など、多くのジャンルから本を選び、子どもの世界を広げてあげましょう。

家読の例 ～その1～

- 子どもを膝の上に乗せて一緒に絵本を読みます
- 眠る時に子どもの枕元でおはなしを読み聞かせます
- 子どもと一緒に声を出してことば遊びの本を楽しみます
- 地域の読み聞かせイベントに子どもと一緒に参加します
- 子どもと一緒に本を見ながら、料理を作ったり工作をしたりします

チェックしてみましょう



小学校中学年以上になったら・・・

読み物や物語の楽しさを味わったり、科学や社会の本への興味を深めたりするとよいとされています。共感力や想像力などの豊かな心と知識を得る楽しさなどの好奇心が育てゆくでしょう。

また、周りの大人が読書を楽しむ姿を見せることも大切です。子どもと一緒に図書館や書店に行き、本を選んだりする姿を見せてあげてください。家族みんなで読書を楽しむ時間をもてるといいですね。

チェックしてみましょう

家読の例 ～その2～

- 子どもと一緒に図書館や書店に出かけます
- 1冊の本をそれぞれが読み、家族で感想を語り合います
- 家族で「読書の時間」を設けて、その時間にそれぞれが好きな本を読みます
- 感想ノートをつくります
- 家族文庫をつくります

